

東北学院大学
学長
松本宣郎



地域に根ざす総合大学として
復興支援や地域経済の活性化に
貢献できる人材を育てたい

本

学院は、隣人を愛し、奉仕するというキリスト教精神に基づき、130年にわたり、地域に根ざし、地域に貢献する人材を育ててきました。東日本大震災ではいち早く災害ボランティアステーションを立ち上げ、各地の大学と連携して、被災地支援のための中継基地としての役割も果たしました。その後、研究の成果を復興や防災計画、街づくりに還元している教員も大勢います。復興への道はまだ遠いことを実感していますが、卒業生総数17万人を超す地域有数の規模と伝統を誇る大学として、自治体や産業界とも協力しながら、地域社会で活躍する人材の育成や、地域経済の活性化に、これからも貢献してい

きたいと考えています。

2014年度には、本学の「地域共生教育による持続的な『ひと』づくり『まち』づくり」事業が、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(COC)に採択されました。翌15年度には、県内12の高等教育機関が連携して申請した「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成」事業が、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)に採択されました。教育内容の質向上にも力を入れています。その第一歩が入学前教育の充実であり、推薦入試合格者に課題を与えるなどの仕組みを検討しています。特に、県内を中心に多数の英語教員を輩出してきた大学として、英

語教育に力を注いでいきます。今年度からは入学者全員に英語の試験を課し、成績の振るわない学生を対象とした特別クラスを編成。反対に成績優秀者には相応のレベルの授業を展開する取り組みも開始しました。

授業改善のため、ほぼすべての授業で学生アンケートを実施するなど、学生による授業評価にも取り組んでいます。高い評価を受けた教員は表彰し、逆に基準以下の場合には学部長がイエローカードを通知するなどして授業改善につなげています。私自身、「古代ローマ帝国とキリスト教」という授業を担当しており、評価の対象なのですが、数値的に健闘し、ほっとしています。

現在、仙台市の中心に位置する土樋キャンパスでは新校舎が完成するなど、キャンパスの整備が進んでいます。学生の主体的な学びをサポートする設備が充実し、より魅力的なキャンパスになるほか、多目的ホールやカフェの設置など、これまで以上に地域に開かれたキャンパスになる予定です。地域に貢献する大学としての立ち位置を明確にし、力のある学生をこれからも育てていきたいと考えています。

【学長プロフィール】まつもと・のりお●1944年生まれ。東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修了。博士(文学)。東北大学教授、同大学院文学研究科教授、同文学研究科長・文学部長などを経て、2008年定年退職。宮城学院学院長、同理事長、同中学校高等学校校長を経て、13年4月東北学院大学学長。14年4月学校法人東北学院理事長。

【大学プロフィール】1886年仙台神学校開校、1949年大学設置。文学部(英文学科、総合人文学科、歴史学科)、経済学部(経済学科、共生社会経済学科)、経営学部(経営学科)、法学部(法律学科)、工学部(機械知能工学科、電気情報工学科、電子工学科、環境建設工学科)、教養学部(人間科学科、言語文化学科、情報科学科、地域構想学科)。※2017年度より工学部の一部学科で名称変更および新学科設置予定。